

大雪山国立公園表大雪地域登山道関係者による冬季情報交換会 議事概要

日時：平成 28 年 12 月 19 日（月）

13:00～16:00

場所：上川総合振興局 3 階 講堂

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所（榎）

- ・今日の情報交換会では、6 月に春季情報交換会を開催し、関係機関・団体の活動の全体像を把握・共有をした上で活動を進めてこられたことを踏まえ、今年度の行った活動の情報交換をして頂くとともに、上川・東川地区グループ、十勝岳連峰地区グループに分かれてグループディスカッションをしたい。グループディスカッションを通じて、参加した皆さんがそれぞれ、来年度どのような活動に重点を置くか、新たにどのような活動をすべきかなどを考える機会にしてほしい旨挨拶。

3. 情報交換

（1）平成 28 年度の活動内容について

■各団体からの報告

- ・環境省、上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、上川総合振興局環境生活課、上川総合振興局南部森室、富良野市、美瑛山岳会、大雪山国立公園研究者ネットワーク、北海道大学大学院、山のトイレを考える会、風の便り工房、北海道山岳整備、大雪山倶楽部、東川エコツーリズム推進協議会、NPO 法人大雪山自然学校、NPO 法人かむいから、今年度実施した活動について、資料に沿って説明があった

（欠席した日本山岳会北海道支部、NPO アースウィンドの報告は石田保護官より代読。）

（出席した上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、旭川山岳会、上川山岳会、上富良野十勝岳山岳会、富良野山岳会、大雪山国立公園自然公園指導員連絡協議会、株式会社離乳観光、山樂舎 BEAR、ガイドオフィス風・北海道山岳ガイド協会大雪山地区連絡調整室、大雪と石狩の自然を守る会からは、資料提供はなかった。）

- ・資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は下記のとおり。

■上川中部森林管理署

- ・環境省から、国立公園と国有林の連携推進会議について話があったが、国立公園、森林生態保護系地域の歩道等の管理を適切にしていくことについて話し合いをしている。大雪山には多くの歩道があるが、環境省が管理できていないのが実態なので、適正な管理に向けて少しずつ取り組んでいきたい。
- ・第一回目の連携推進会議では、調査事業を環境省と林野庁で一緒に行うことで、協力して大雪山を保護することを話し合った。例えば、美瑛富士の携帯トイレブースについては協働で一緒に行うことで、貸し付け手続きをしないことを考えている。
- ・GSS（グリーン・サポート・スタッフ）等が、ニセイカウシュッペ等国立公園の色々な所でササ刈りをしているが、本来は自然公園法に基づき歩道事業の認可を受けている方々が行う仕事であり、今後は認可を受けた者や歩道の利用者から要請があるとこ

ろについてお手伝いをするという形で進めたい。

- ・また、自然公園法により歩道事業の認可を受けた者については、歩道敷地を借りていただきたいと考えている。この場合無償で貸与できるし、借りて頂くことによって歩道の管理がより適切になると思う。
- ・国有林にはレクリエーションの森があるが、会計検査の指摘を受けて地元からの協力が得られない箇所については廃止したいと考えている。
- ・歩道等の維持管理を行う際にボランティアを受け入れる話を環境省としているが、それをシステムチックにできる方法を考えている。環境省は認可がないとボランティア活動ができないとの考えのようだが、ボランティアの受け入れを進めるためにはもう少し柔軟に考えた方がよい。今後、ボランティアの受入れや歩道の維持管理についてのマニュアルのようなものを作りたいと環境省と話している。

■上川総合振興局環境生活課

- ・黒岳石室のトイレは、処理能力に対して利用者が大幅に多いので、水分過多となり、おがくずが本来の機能を果たしていないことが問題。
- ・この問題への対応について、年明けに関係者で具体的な話し合いを進めたい。完全な解決にならないかもしれないが、みんなで意見を出し合いたい。

■美瑛山岳会

- ・美瑛富士避難小屋は平成8年に新築し、20年経過したが老朽化が進んでいる。ドア周り・冬用の出入口の腐食が進んでおり、積雪期に冬用の出入り口が凍り付いていることが多く、登山者が中に入るためにピッケルで叩くことからアクリル板が割れてしまい、今年も窓を修繕した。

■美瑛町経済文化振興課

- ・10月19日に十勝岳防災シェルターがオープンした。年内は12月29日まで営業、年明けは4月29日頃オープン予定。台風被害については、白金地区の青少年交流の家の先の橋が落ちていて通行止めとなっている。復旧の見込みはないが、来春の情報交換会でその後の見通しについて情報提供したい。

■大雪山国立公園研究者ネットワーク

- ・外国人登山者のための英語版地図が今年度末に完成予定。

■山のトイレを考える会

- ・美瑛富士の携帯トイレブースでは、使用済み携帯トイレがブース内に残置されていることがあった。使用方法について周知徹底をしたい。
- ・携帯トイレシステムで一番重要なのは回収ボックスで、いくらブースを設置しても回収ボックスがないと機能しない。美瑛町には白金観光センタートイレ裏、上富良野町には十勝岳温泉登山口、吹上温泉登山口にボックスを置いて、それぞれボックスの維持管理とゴミの回収をやって頂いている。

■NPO 法人大雪山自然学校

- ・旭岳ネイチャーレターを発行しているが、今週の天気や適切な服装を絵で表しわかりやすいようにした。ロープウェイ姿見駅舎内に協力金箱が設置されているが、年々募金額が減っている。ガイドがツアー後にお客さんに募金をアナウンスしてくれると募

金率は高くなるようだ。外国人には日本語でアナウンスしても理解されているかわからず、募金をしてくれる人は少ない。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・ヒグマ大学という自然解説講座を開講しており、2016年は36期目となった。大雪山を中心に8つの講座を開講し、登山道補修や植生保護について啓蒙活動をしている。また、会員もたまには山へ恩返しに参加している。

■(有)風の便り工房

- ・8月の台風時に2名の職員がヒグマ情報センターに取り残された。その後、道路やヤンベタップの沢の架け橋は復旧したが、沼巡りコースを逆に登った先のヤンベの沢は登山道が消滅してしまい、一般の方は歩行が難しい状況となった。沼巡りコースについては紅葉の最盛期でも空沼で引き返してもらうこととし、一周させることはできなかった。
- ・8月11日に上川近郊の高校山岳部、北大生等と資材を荷上げた。

■北海道山岳整備

- ・モンベル大雪ひがしかわ店で10月半ば～11月半ばに登山道整備の報告写真展を開催した。本年度は東川自然保護官事務所、上川自然保護官事務所の登山道維持管理業務を請負。原始ヶ原植生復元作業、愛山溪の橋かけ直し、パークボランティアのテンサーの手伝いを行った。その他、りんゆう観光から黒岳7号目遊歩道整備を受託。

■山樂舎 BEAR

- ・平成25年から「たまには山へ恩返し」ツアーを開催し、今年で4年目。昨年の参加者は28名だったが今年は35名に増えた。場所は姿見の池から裾合分岐に向かう途中の地点。
- ・去年は当日に班分けをして施工方法も大雑把な説明だったため、手持ちぶさたな参加者がいたので、今年はそれがないようにした。事前に班分けをして、班長を決め、施工内容をプリントアウトし当日配付し、施工の仕方について認識を共有した。モンベルからは参加者にハンカチ、北海道山岳整備の岡崎氏からはトマトジュースを提供してもらった。旭岳ファンクラブからも資金協力を得て源五郎ネットを購入した。
- ・夕方からキトウシ地域交流センターにて反省会を開催。こちらは大雪山国立公園連絡協議会に会場費等の支援を得た。反省会の内容は当日施工した写真を見ながら各班長からどういう目的で施工をしたのか発表した。
- ・施工箇所のチェックとフィードバックが重要であるが、ネットが外れている等あれば山樂舎 BEAR か上川総合振興局環境生活課か北海道山岳整備に知らせて欲しい。

■りんゆう観光

- ・黒岳七合目に「黒岳カムイの森の道」を開通させた。水平にトラバースする道なので気軽に歩ける道となっており、活用していきたい。大雨があったが、今のところ被害は確認されていない。

(2) 課題共有と次年度の活動に向けたグループディスカッション

- ・上川・東川地区グループと、十勝岳連峰地区グループの2つに別れ、グループディス

カッションを実施。今年度の活動の結果から見えてきた課題を出し合うとともに、来年度の活動に向けた情報・意見交換。各グループで出た、主な情報、意見又は議論の内容は次のとおり。

1) 上川・東川地区グループ

○腐朽した看板類について

- ・大雪山の縦走線沿いに、落書きされた標柱を頻繁に見かけたこと、落書きされていた看板類はいずれも錆びたり、壊れていたり老朽化していたものが多かったが、今後撤去などをする予定はないのだろうかとの意見があった。
- ・上川自然保護官事務所から、腐朽した標柱などは、昭和 40 年代に北海道が設置した登山道が多く、今後は撤去にむけて、管理者である北海道を中心に、関係機関、団体が協力して取組む必要があると考えているところとのコメントがあった。

○大雪山グレードの周知について

- ・大雪山グレードが既存の誘導標識に貼付けられているが、小さすぎてほとんどの人が認識できないこと、平成 27 年度に策定した大雪山グレードは平成 18 年度に策定した登山道管理水準が一般登山者に普及しなかった反省の上に成り立っているため、今回策定した大雪山グレードについては普及のための努力を一層すべきとの意見があった。

○埋設されたゴミ、冬期のバックカントリーで入山したスキーヤーなどのゴミ

- ・今年相次いで上陸した台風の影響で、裏旭岳キャンプ場付近の地面の表層部分の土砂が大雨で削られたことによって、昔埋められていたゴミなどが地面に露出している状況であるため、これらのゴミを回収する取組をするのはどうかとの意見があった。
- ・旭岳方面では冬期のバックカントリーで入山したスキーヤーが捨てたゴミ（特にペットボトルが多い）が、雪解けの時期になると至る所に散乱しているので、山スキーでどこでも滑ることができる現状は問題で規制することはできないのかとの意見があった。

○登山道補修作業の PDCA サイクルについて

- ・これまで実施してきた登山道補修の施工については、PDCA サイクルうち C（評価）と A（改善）が不十分であったことが大きな課題であり、毎年の情報交換会でその点を議論することとする等、PDCA のサイクルをシステムとして回していくことが必要との意見が出された。一方で、情報交換会ではそのような議論の時間が足りないので、例えば、情報交換会の前後にワーキンググループなどを開催し、詳細な議論を行うことや、補修作業を行った現場を実際に見ることも重要であるとの意見が出された。

○登山道状況データベースについて

- ・登山道を整備、補修する上で、過去の情報、写真は重要であるため、過去の写真を地点ごとに整理蓄積するとともに、今後撮影された写真をそこに追加していくことができるデータベースを作る必要があるとの意見が出された。自然保護官事務所には、以前に登山道のカルテを作成した際、登山道を相当網羅する形で定点を設定して写真を撮影したため、それを基として、構築していければよいとの話もあった。

○その他

- ・天人峡化雲岳登山口から滝見台の登山道付近に生息している大雪山特有の植物ハゴロモホトトギスが、登山道の維持管理のためのササ刈りによって刈られていたとの情報提供があり、今後維持管理作業の際に配慮することとした。

2) 十勝岳連峰地区グループ

○事業執行者について

- ・国立公園の歩道事業の執行者がいないと、登山道に関する問題点を伝える先が分からず、地元山岳会が動きづらいなど不都合があるとの意見があった。また、未執行区間でも登山道整備を進めたいが、管理者責任や法令上の問題があり、やりますと簡単に手を上げられず、協働型での登山道整備に行き詰まりを感じているとの意見も出た。

○役割について

- ・登山道が荒れた場合の対応などについて、各行政がそれぞれ担える役割や対応のフローをしっかりと整理し、音頭をとって進めていけば一般市民も手伝いやすい。利用者を含めた管理体制を考える必要があるといった意見が出た。

○地元整備の限界

- ・主に北向沢のロープやはしご、原始が原滝コースの丸太橋に関する話題が出た。整備を担っている地元山岳会では、そうした危険箇所については手に負えなくなってきたおり、もし事故があったときの責任も負いきれないことから、行政が耐久性の高い施設を整備するなど、中長期的な管理を見据えた対応をとるべきではないかといった、地元の団体による整備の限界について、多くの意見が出た。また、一般登山者は地元が整備しているということに関心が無いといった感想もあった。

○協働型による登山道維持管理について

- ・本州などの事例（中部山岳では山小屋の管理人が周辺登山道を積極的に整備していること、大山では登山者に石（登山道補修資材として利用）を荷上げしてもらっている）を参考にして、大雪山はどのような手段で市民の参加を得ていくのかを考えるべきという意見があった。
- ・恩恵を受けている山に、何かをしたいと思ってもらえるようにする。入れ込みの多いところは資材運びの協力で呼びかけ、一人一人の協力は小さいが、大きな力になるという考え方が広まるのが理想といった意見がでた。
- ・方法や案は一つではなく、地域で特色があってよい。大きな軸はあっても、地域に適したものを作り、それぞれの地域のパターンを大雪山で積み上げていくのが目標ではないかといった考えも出た。
- ・上富良野町は、地元からの声かけも大きく影響し、登山道整備は山岳会協力の下自治体も動き、自衛隊の若い力もあっていい雰囲気、一緒に現場をみたり情報を共有しあったりして連携を強めているとの情報提供があった。
- ・課題として、作業の人材不足、継続的な維持管理ができていないことが挙げられた。

○入山料や協力金について

- ・今後入山料について議論をすべきではないかとの意見があった。これまでも、度々入山料の話がでるが、利用者が多いところと少ないところで入山料金の差ができる

ので、取り組む場合はお金を大雪山で均一にならして、用途を明確に提示して有効に使用する必要があるとの意見もあった。

○大雪山グレードランクについて

- ・グレードのランク付けについて、原始が原滝コースは地元山岳会と相談もなくグレード5に位置づけられて、市民が登山できる場所なのに、近寄りがたく難しいコースと思われるのは遺憾だとの意見があった。
- ・一方、グレードのランクは単に難しいから数字が上がるという意味でもなく、5の場合だと利用者数が少ないとか原始性の自然の雰囲気も優先しようという意見もあった。

○その他

- ・整備における許認可や予算措置など行政の配慮をして欲しいといった意見もでた。
- ・GSSは登山道整備よりも普及啓発に力を入れているとの情報提供があった。

3) グループディスカッション後の議論

■上川自然保護官事務所

- ・上川・東川地区グループと、十勝岳連峰グループで出された意見は、地域性を反映してか着眼点や内容が異なるように思えた。参加していないグループの議論の状況について、議事概要でも確認いただき、今日得られた成果を生かしていただければよいと思う。

4. 閉会

■上川自然保護官事務所

- ・来年度の活動をよりよくしていくために改善に向けて出来ることを今日からやっていきたいと思う。本日はお集まり頂き感謝。